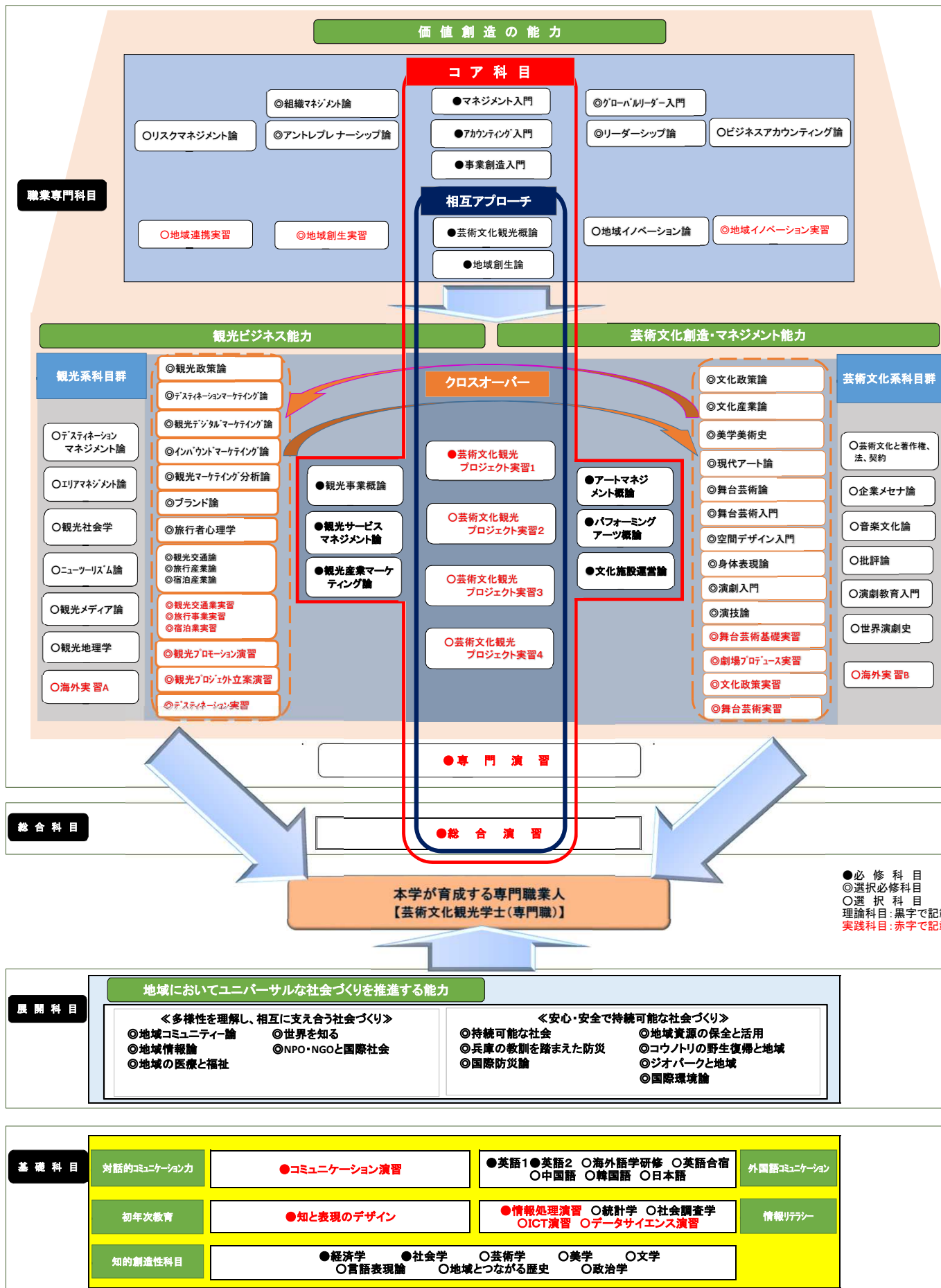


審査意見への対応を記載した書類 資料目次

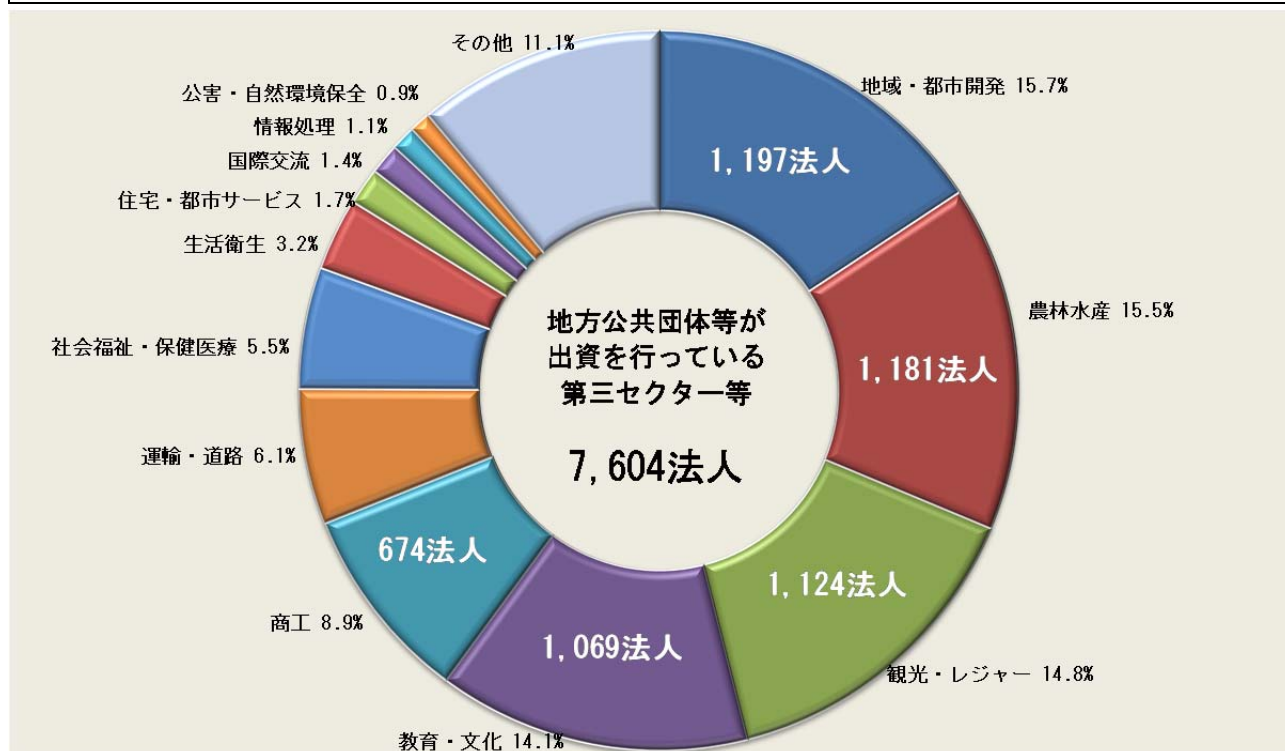
- 資料 1 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、教育課程の対応表
- 資料 2 教育課程の編成の考え方
- 資料 3 平成27年度 第三セクター等の状況に係る調査結果（総務省）
- 資料 4 平成28年度 劇場、音楽堂等の活動状況に関する調査報告書（抜粋）P. 58、159
- 資料 5 令和元年版「観光白書」（抜粋）P64
- 資料 6 観光や宿泊業を取り巻く現状及び課題等について
- 資料 7 臨地実務実習 巡回指導計画表
- 資料 8 臨地実務実習・連携実務演習等 配置表
- 資料 9 履修モデル、履修モデル別DP・CP・教育課程の対応表、履修モデル別科目編成【アーツカウンシル・ディレクター】
- 資料 10 履修モデル、履修モデル別DP・CP・教育課程の対応表、履修モデル別科目編成【アートマネジャー】
- 資料 11 履修モデル、履修モデル別DP・CP・教育課程の対応表、履修モデル別科目編成【DMOディレクター】
- 資料 12 履修モデル、履修モデル別DP・CP・教育課程の対応表、履修モデル別科目編成【観光事業プランナー・マネジャー】
- 資料 13 臨地実務実習マニュアル
- 資料 14 実習支援センター規程
- 資料 15 教育課程連携協議会構成員名簿



3 第三セクター等の業務分野

- ・ 第三セクター等の業務分野は「地域・都市開発」が最も多く（1,197法人）、次いで「農林水産」（1,181法人）、「観光・レジャー」（1,124法人）の順になっています。
- ・ 「情報処理」、「運輸・道路」、「観光・レジャー」分野では株式会社の割合が高く、「国際交流」、「公害・自然環境保全」、「教育・文化」分野では、社団法人・財団法人の割合が高くなっています。

※各業務分野の分類については次頁を参照



業務分野	公益社団法人	一般社団法人	特例民団法人(旧社団)	公益財団法人	一般財団法人	特例民団法人(旧財団)	株式会社	その他会社法人	地方住宅供給公社	地方道路公社	土地開発公社	地方独立行政法人	合計	(参考) 26年度調査
地域・都市開発	2	4	0	97	77	4	267	1	0	0	745	0	1,197	1,272
住宅・都市サービス	0	0	0	12	21	1	48	1	43	0	0	0	126	137
観光・レジャー	6	29	0	50	161	1	823	54	0	0	0	0	1,124	1,146
農林水産	114	111	5	187	111	1	504	146	0	0	0	2	1,181	1,200
商工	3	7	0	168	93	0	377	19	0	0	0	7	674	676
社会福祉・保健医療	6	7	0	232	109	2	13	1	0	0	0	45	415	418
生活衛生	4	2	0	115	44	1	75	6	0	0	0	0	247	250
運輸・道路	0	2	0	7	15	0	395	11	0	33	0	0	463	467
教育・文化	13	8	1	724	196	5	54	3	0	0	0	65	1,069	1,076
公害・自然環境保全	3	2	0	49	11	0	6	0	0	0	0	0	71	71
情報処理	0	2	0	1	3	0	79	0	0	0	0	0	85	86
国際交流	0	1	0	91	10	1	2	0	0	0	0	0	105	104
その他	4	6	0	179	51	3	590	13	0	0	0	1	847	842
計	155	181	6	1,912	902	19	3,233	255	43	33	745	120	7,604	7,745

〔国立施設〕

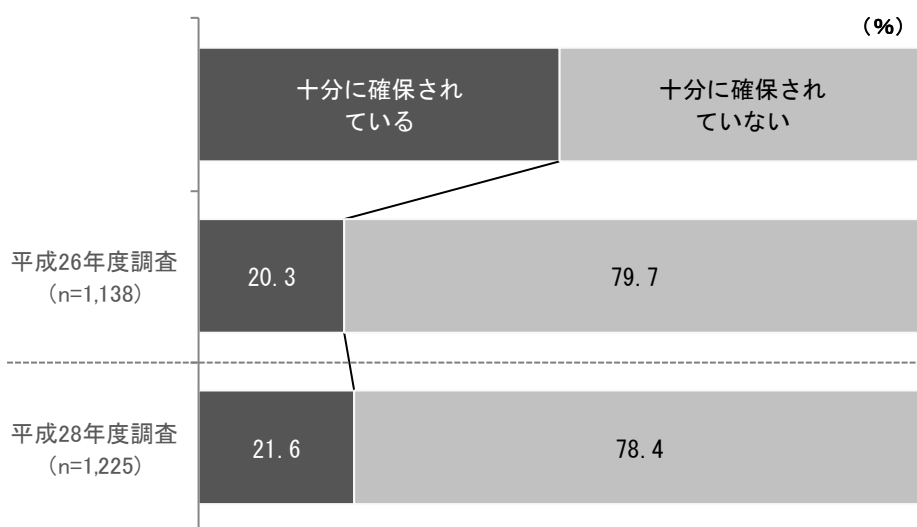
4. 専門的人材の確保

(1) 専門的人材の確保について

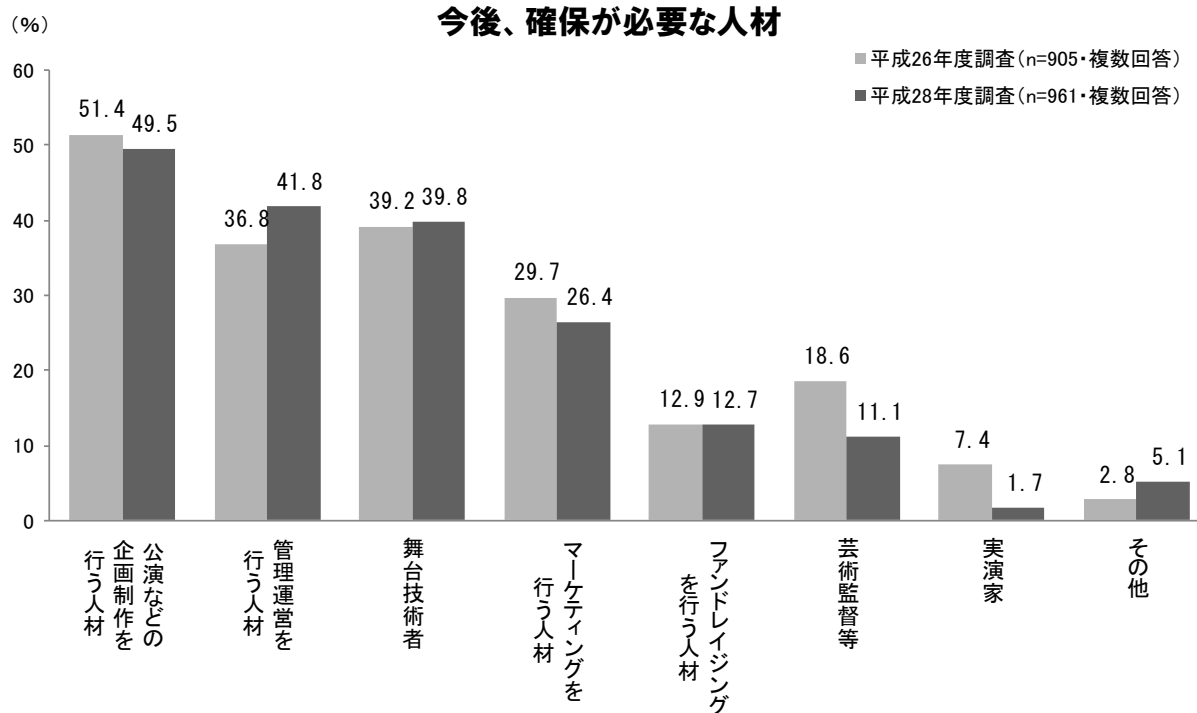
専門的な人材については、今回調査では21.6%が「十分に確保されている」、78.4%が「十分に確保されていない」との回答になっている。前回調査と殆ど差はない。

「今後確保が必要な人材」としては、「公演などの企画制作を行う人材」が49.5%で最も多く、ついで「管理運営を行う人材」(41.8%)、「舞台技術者」(39.8%)、「マーケティングを行う人材」(26.4%)と並んでいる。前回調査と比較すると「管理運営を行う人材」と回答した館の割合が増えている。その他の人材の内容は、「オールマイティな人」「社会教育主事」「学芸員」「生涯学習関係」「教育普及関係」「システム担当」など多様である。

専門的人材の確保



今後、確保が必要な人材



〔私立施設〕

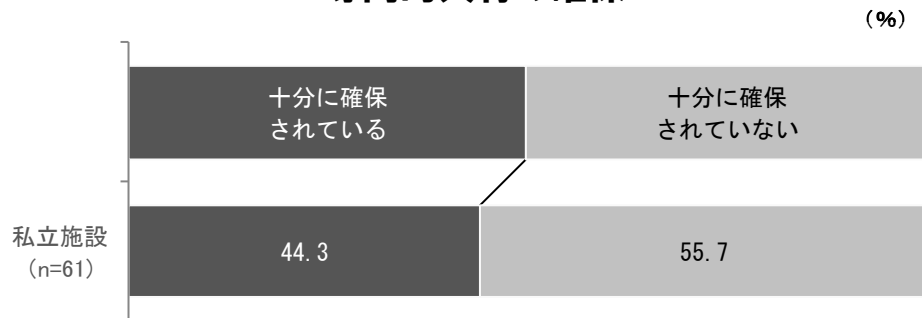
4. 専門的人材の確保

(1) 専門的人材の確保

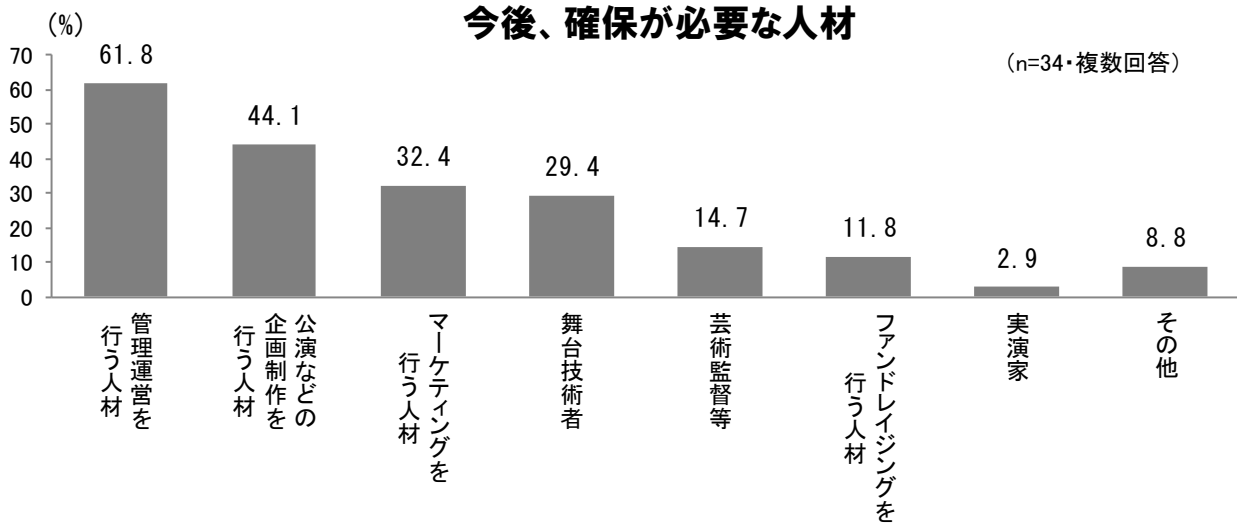
専門的人材の確保については「十分に確保されている」(44.3%)、「確保されていない」(55.7%)となっており、若干ではあるが、確保されていないという館が多い。

今後確保が必要な人材としては「管理運営を行う人材」が61.8%と最も高く、ついで「企画制作」の44.1%、「マーケティング」の32.4%、「舞台技術者」の29.4%と続く。

専門的人材の確保



今後、確保が必要な人材

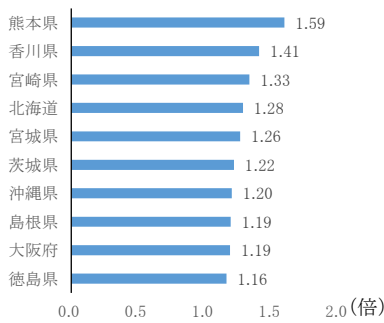


[表 4-1] 専門的人材の確保

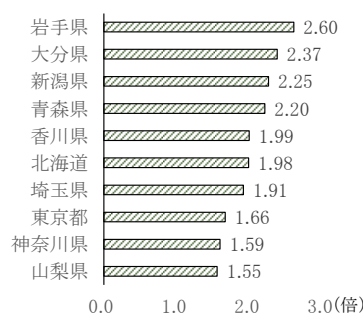
	n数	十分に確保されている (%)	十分に確保されていない (%)	今後、確保が必要な人材 (複数回答)								
				回答施設数 (件)	芸術監督等 (%)	公演などの企画制作を行う人材 (%)	管理運営を行う人材 (%)	マーケティングを行う人材 (%)	ファンドレイジングを行う人材 (%)	舞台技術者 (%)	実演家 (%)	その他 (%)
私立施設	61	44.3	55.7	34	14.7	44.1	61.8	32.4	11.8	29.4	2.9	8.8

図表Ⅱ- 31 観光関連産業における常用雇用者数の変化（都道府県別）
（2012年（平成24年）→2016年（平成28年））

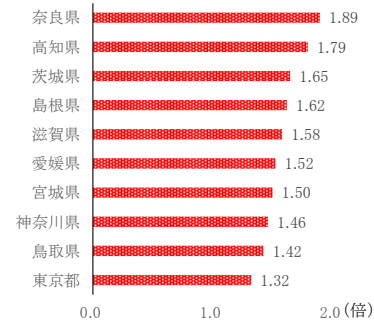
(1) 旅行業



(2) 公園、遊園地



(3) 自動車賃貸業

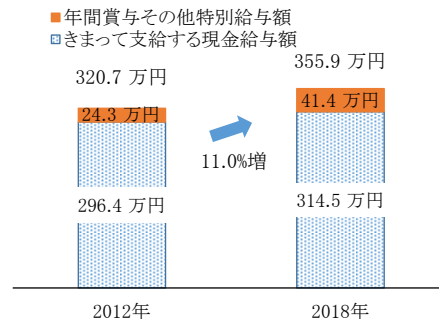


資料：総務省・経済産業省「平成28年経済センサス-活動調査」、「平成24年経済センサス-活動調査」に基づき観光庁作成

(宿泊業の賃金は人手不足や労働生産性の向上等を背景に上昇)

次に、外国人旅行者の増加が我が国の労働者の賃金に与える影響を検証するため、厚生労働省の賃金構造基本統計により、宿泊業における賃金の状況を確認した。その結果、2012年（平成24年）には、宿泊業における1人当たりの「きまって支給する現金給与額」が年間で296万4千円、「年間賞与その他特別給与額」が年間で24万3千円で、合計で320万7千円であったが、2018年（平成30年）には「きまって支給する現金給与額」が年間で314万5千円、「年間賞与その他特別給与額」が年間で41万4千円で、合計で355万9千円となり、合計でみると賃金は6年間で11.0%上昇している。このうち、特に「年間賞与その他特別給与額」の伸びが大きく、単独では51.3%上昇している。なお、全産業平均は、「きまって支給する現金給与」と「年間賞与その他特別給与額」との合計で497万2千円であり、依然として平均を下回っている。

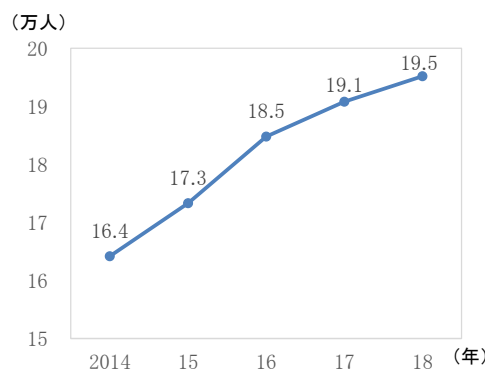
図表Ⅱ- 32 宿泊業における賃金の変化（2012年（平成24年）→2018年（平成30年））



資料：厚生労働省「賃金構造基本統計」に基づき観光庁作成

また、厚生労働省の職業安定業務統計により、宿泊業の新規求人数の推移を確認すると、2014年（平成26年）の新規求人数は16.4万人であったが、その後右肩上がりに増加し、2018年（平成30年）には19.5万人と、4年間で18.9%増加した。

図表Ⅱ- 33 宿泊業の新規求人数の推移



資料：厚生労働省「職業安定業務統計」に基づき観光庁作成

観光や宿泊業を取り巻く現状及び課題等について

平成31年1月28日
観光庁観光産業課

宿泊分野における有効求人倍率(平成29年度)

(単位:人、倍)

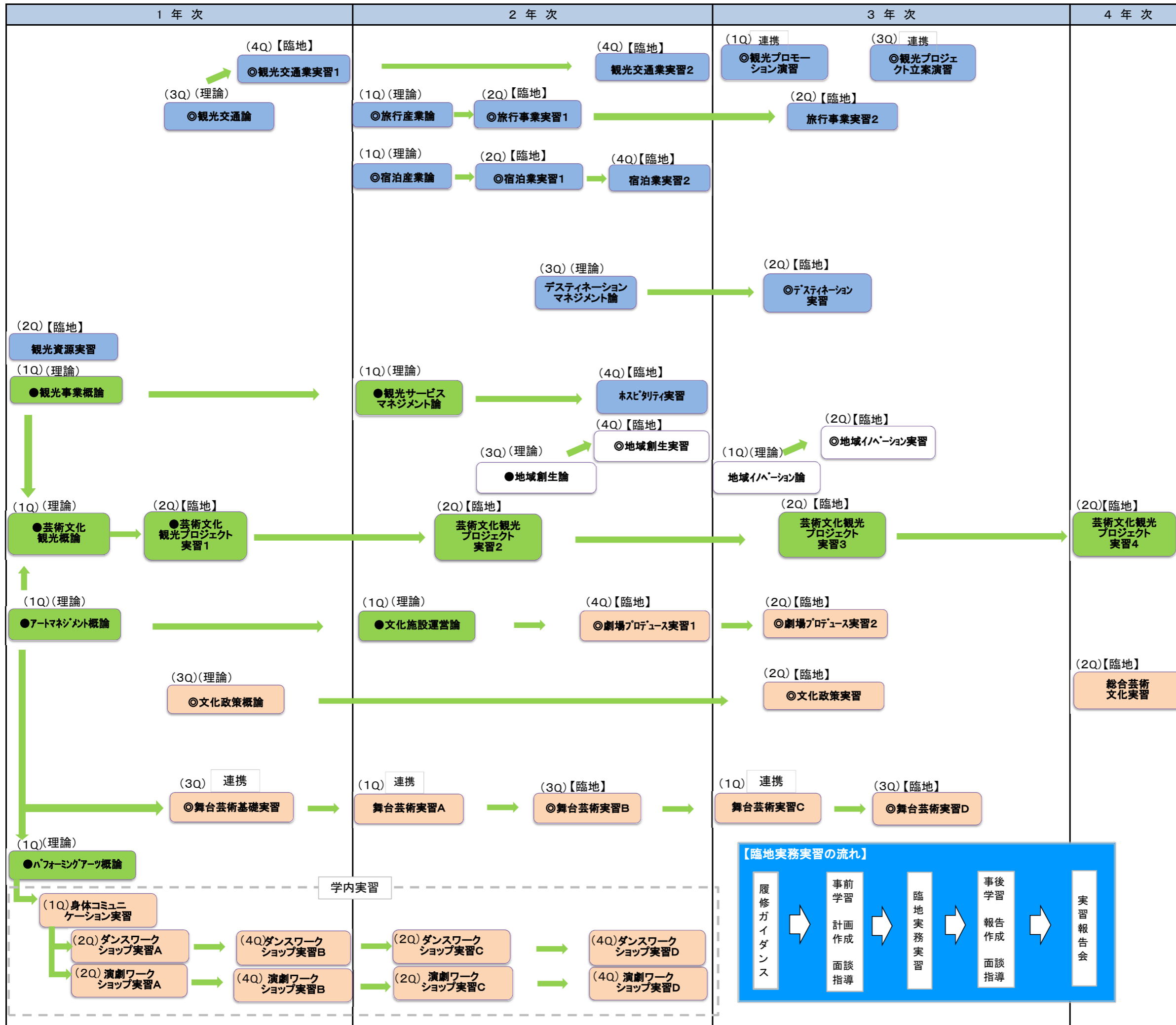
職業分類(小分類)	有効求人数	有効求職者数	有効求人倍率 (求人／求職)
旅館・ホテル支配人	6,311	2,794	2.26
飲食物給仕係	924,027	128,972	7.16
旅館・ホテル・乗物接客員	223,721	55,859	4.01
合 計	1,154,059	187,625	6.15
(参考)職業計	28,997,798	20,982,347	1.38

(出典)厚生労働省「職業安定業務統計」

(注) 数値は全て常用(パート含む)、原数値。

「常用」とは、雇用契約において、雇用期間の定めがない又は4か月以上の雇用期間が定められているものをいう。

ディプロマポリシーに掲げる能力を養成するため以下のカリキュラムを編成する。



D P	
基礎的な知識・技能及び対話的コミュニケーション能力	<p>イ 多様なステークホルダーの考え方を理解し、対話を身に付けていくことができる。</p> <p>ア 学士(専門職)として必要となる身に付け、状況に応じて活用することができる。</p>
芸術文化創造・マネジメント能力	<p>イ 芸術文化の発展に貢献する態度を有している。</p> <p>ア 専門的知識の運用及び舞台芸術に関する知識を身に付けていくことができる。</p>
観光ビジネス能力	<p>イ 観光事業におけるマネジメントの特性について理解し、実践的な知識を身に付けていくことができる。</p> <p>ア 観光地づくりに関する理解を深め、観光地づくりに貢献する態度を有している。</p>
価値創造の能力	<p>イ 芸術文化及び観光に関する知識を身に付けていくことができる。</p> <p>ア 芸術文化及び観光が地域の活性化にどのような役割を果たしているかを理解し、実践的な知識を身に付けていくことができる。</p>
地域においてユニバーサルな社会づくりを推進する能力	<p>イ 多様なステークホルダーの考え方を理解し、対話を身に付けていくことができる。</p> <p>ア 多様なステークホルダーの考え方を理解し、対話を身に付けていくことができる。</p>

人材像

地域活性化における芸術文化と観光に関する事業活動を推進することによって、両分野双方の視点を生かす人材

職業専門科目

- 観光系 (Blue box)
- コア科目 (Green box)
- 共通科目 (White box)
- 芸術文化系 (Orange box)
- 総合科目 (Red box)

● : 必修科目

◎ : 選択必修科目

無印 : 選択科目

区分	1年次				2年次				3年次				4年次				実習	臨実	計	総計														
	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q																		
基礎科目	必修	コミュニケーション演習 知と表現のデザイン 情報処理演習 英語1A	1 1 1 3	社会学	1	コミュニケーション演習 知と表現のデザイン 情報処理演習 英語1B	2 1 1 3		英語2A	2	経済学	1	英語2B	2							0	0	19	20										
	選択							政治学	1												0	0	1											
コア科目群	必修	マネジメント入門 観光事業概論 アートマネジメント概論 パフォーミング アーツ概論 芸術文化観光概論	2 2 2 2 1	芸術文化観光プロジェクト実習1	2	アカウンティング入門	2	事業創造入門 観光サービスマネジメント論 文化施設運営論	2 2 2	観光産業マーケティング論 地域創生論	2 2	観光産業マーケティング論 地域創生論	2 2	専門演習	2	専門演習	2							2	2	27	33							
	選択							芸術文化観光プロジェクト実習2	2					芸術文化観光プロジェクト実習3	2									芸術文化観光プロジェクト実習4	2			6	6	6				
共通	職業理論科目	選択必修						グローバルリーダー入門	2																0	0	2	4						
	職業実践科目	選択必修										地域創生実習	2													2	2		2					
	職業理論科目	選択必修																											0	0	0			
	職業実践科目	選択必修																											0	0	0			
職業専門科目	観光系科目群	職業理論科目	選択必修			観光政策論	2			宿泊産業論	2	観光マーケティング分析論	2															0	0	6	12			
	職業実践科目	選択必修								宿泊業実習1	4																	6	6	6				
	職業理論科目	選択必修																												0		0	0	
	職業実践科目	選択必修																												0		0	0	
芸術文化系科目	職業理論科目	選択必修			文化政策概論	2		舞台芸術入門	2			美学美術史	2	舞台芸術論	2														0	0	8	41		
	職業理論科目	選択		世界演劇史	1			批評論	2			世界の文化政策	2	企業メセナ論	2		音楽文化論	2											0	0	9			
	職業実践科目	選択必修			舞台芸術基礎実習	2						劇場プロデュース実習1	2	劇場プロデュース実習2	2													8	8	8				
	職業実践科目	選択	身体コミュニケーション実習	2	演劇ワークショップ実習A	2		演劇ワークショップ実習B	2	舞台芸術実習A	2	演劇ワークショップ実習C	2		演劇ワークショップ実習D	2												16	6	16				
展開科目	選択必修			世界を知る 地域の医療と福祉 持続可能な社会	2 2 2		地域コミュニティー論	2				兵庫の教訓を踏まえた防災 ジオパークと地域	2	コウノトリの野生復帰と地域 地域資源の保全と活用 地域情報論 国際環境論	2 2 2 2												0	0	20	20				
総合科目	必修																										0	0	4	4				
卒業要件単位数		17		6	21	2		20		10		12		6		6		10		14		0			2		6	2		0	40	30	134	134

履修モデル別の科目編成

●必修、◎選択必修、○選択

		アーツカウンシル・ディレクター			
就職先区分	アーツカウンシル、文化財団法人、地方自治体				
職種	アーツカウンシルのディレクター、地方自治体の文化政策担当、フェスティバルプロデューサー				
役割	①美的判断力、マネジメント能力、リーダーシップ等を発揮し、芸術を享受する環境を整備 ②文化的コモンズの形成を通じて地域の文化政策を実現 ③公演や作品等のコーディネート ④マーケティング、資金獲得、営業・渉外・広報等のマネジメント ⑤芸術文化の受け手と作り手を結ぶコーディネート				
区分	分類	科目	区分	身に付く知識・技能	
基礎	対話的コミュニケーション能力	コミュニケーション演習	●	対話を通じての関係者間の合意形成能力	
	初年次教育	知と表現のデザイン	●	大学での学びの姿勢、将来に向けたキャリアデザインを形成	
	教養、言語・情報リテラシー	情報処理演習		●	基礎的な情報処理に関する知識・技能を修得
		英語 1 英語 2		●	外国人との必要なコミュニケーションを図る能力を養成
		社会学		●	人間の活動が地域社会に及ぼす影響を考察する能力を養成
		政治学		○	法令・予算等の制定・改正のプロセス・ダイナミズムを理解
経済学		●	芸術文化、観光の事業を経済活動として捉え、考察する能力を養成		
職業専門	共通 (専門知識・技能)	マネジメント入門	●	マネジメントの基礎理論を学修	
		アカウンティング入門	●	会計に関する基礎知識を修得	
		事業創造入門	●	新たな価値創造(新規事業の創造)に関する基礎理論を修得	
	観光 (専門知識・技能)	観光事業概論	●	観光産業に関する事業内容、課題、動向等の知識を修得	
		観光サービスマネジメント論	●	観光産業の特性に応じたサービスマネジメントの理論を学修	
		観光産業マーケティング論	●	観光産業の特性に応じたマーケティングの理論を学修	
	芸術文化 (専門知識・技能)	アートマネジメント概論	●	芸術文化と様々な分野とのつながりを理解。文化施設運営の実務に関する基礎知識を修得	
		パフォーミングアーツ概論	●	パフォーミングアーツの意味するところに関する基礎的な知識	
		文化施設運営論	●	文化施設の企画運営に関する知識・技能。実践に向けた土台を形成	
	共通 (専門知識・技能)	芸術文化観光概論	●	芸術文化と観光が地域活性化に果たす役割、学修する意義を考察	
		地域創生論	●	地域の発展に向けた理論、手法等に関する知識を修得	
		芸術文化観光プロジェクト実習 1	●	国際演劇祭をフィールドに、芸術文化、観光を活用した取組を実践する知識・技能を養成	
		芸術文化観光プロジェクト実習 2	○		
		芸術文化観光プロジェクト実習 3	○		
		芸術文化観光プロジェクト実習 4	○		
		専門演習	●	芸術文化及び観光により地域活性化を図る専門知識。研究課題の収集、研究方法	
	共通(経営に関する専門知識・技能)	グローバルリーダー入門	◎	多文化主義的価値観を備えたリーダーシップについて考察	
	共通(地域創生に関する専門知識・技能)	地域創生実習	◎	地方自治体における地域創生の取組について実習	
	観光 (観光ビジネス能力に関する専門知識・技能)	観光政策論	◎	観光政策のあり方について多角的な視座を獲得	
		宿泊産業論	◎	宿泊産業を俯瞰し、現状と課題、将来のあり方を考察	
		観光マーケティング分析論	◎	汎用性の高い統計分析手法・表現方法を学修	
		宿泊業実習 1	◎	宿泊産業の現場実習を通じて課題や改善策を考察	
		観光プロジェクト立案演習	◎	観光商品・サービスの企画開発に関して演習	
	芸術文化 (芸術文化創造・マネジメント能力に関する専門知識・技能)	世界演劇史	○	古今東西の劇場と演劇の歴史	
		文化政策概論	◎	日本の文化政策の現状と課題、芸術文化の公共性について理解	
		批評論	○	表現者・アートマネージャー・プロデューサーに求められる批評力を養成	
		美学美術史	◎	アートの概念、人類史的意義を美学、現代思想の視点から考察	
世界の文化政策		○	各国の文化政策と比較しながら、文化政策の歴史、理論を考察		
企業メセナ論		○	企業メセナの今日的な課題を分析、社会との関わりを多角的に考察		
音楽文化論		○	音楽文化の基礎的素養を身につけ、良質な音楽芸術を媒介・普及するアートマネージャー技法等を修得		
舞台芸術入門		◎	舞台芸術全般に関する基礎知識		
舞台芸術論		◎	舞台芸術における作家-作品-観客の関係についての諸理論		
舞台芸術基礎実習		◎	舞台芸術の制作・創作に関する全般的知見(体験的基礎知識)		
舞台芸術実習 A		○	ステージマネージャーに関する知識と技能		
劇場プロデュース実習 1		◎	劇場現場での実習を通じて劇場運営に関する職業能力を養成		
劇場プロデュース実習 2		◎	劇場現場での実習を通じて劇場運営に関する職業能力を養成		
文化政策実習		◎	地方自治体の文化政策の現状・課題、具体的な対応策を検討		
総合芸術文化実習		○	芸術実践や劇場運営に関する専門的な知見と高度な遂行能力		
身体コミュニケーション実習		○	身体感覚に基づくコミュニケーションのあり方		
演劇ワークショップ実習 A		○	俳優の心構え・身構え		
演劇ワークショップ実習 B		○	演出家やドラマティチャーのスキル(発想力や指導力、言葉の運用能力等)		
演劇ワークショップ実習 C		○	演技や演出の急所を捉える能力		
演劇ワークショップ実習 D		○	演劇ワークショップファシリテーター、教育コーディネーターの知識と技能		
展開	創造的な役割を果たすための応用能力	世界を知る	◎	世界の政治経済、歴史、宗教等に関する知見を修得	
		地域の医療と福祉	◎	地域医療、福祉に関する知識を修得	
		持続可能な社会	◎	「持続可能な発展」の理念を理解する	
		地域コミュニティ論	◎	地域コミュニティの課題、公共私領域における活動概念を理解	
		兵庫の教訓を踏まえた防災	◎	阪神淡路大震災の教訓を踏まえ、災害への備えを学修	
		ジオパークと地域	◎	ジオパークを題材に、地質・地形と文化・産業等の活動を理解	
		コウノトリの野生復帰と地域	◎	コウノトリと人が共生する地域の環境課題等を理解	
		地域資源の保全と活用	◎	地域資源の発見・保全・活用に関する基礎知識を修得	
		地域情報論	◎	地域情報を解析し、地域の実情を理解	
		国際環境論	◎	グローバルな環境問題を読み解く基礎知識を修得	
		総合	教育課程の集大成	総合演習	●

区分	1年次				2年次				3年次				4年次				実習	臨実	計	総計																
	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q																				
基礎科目	必修	コミュニケーション演習 知と表現のデザイン 情報処理演習 英語1A	1 1 1 3	1 1 1 3	1 1 1 3	2 1 1 3	2 1 1 3	英語2A	2	2	1 1 1 3	2 1 1 3							0	0	19	20														
	選択																		0	0	1															
コア科目群	必修	マネジメント入門 観光事業概論 アートマネジメント概論 パフォーミングアーツ概論 芸術文化観光概論	2 2 2 2 1	2 2 2 2 1	2 2 2 2 1	2 2 2 2 1	2 2 2 2 1	事業創造入門 観光サービスマネジメント論 文化施設運営論	2 2 2 2 1	2 2 2 2 1	観光産業マーケティング論 地域創生論	2 2 2 2 1	2 2 2 2 1	専門演習	2	2	専門演習	2					2	2	27	33										
	選択							芸術文化観光プロジェクト実習2	2	2								芸術文化観光プロジェクト実習3	2						芸術文化観光プロジェクト実習4		2	2	6	6	6					
共通	職業理論科目	選択必修												組織マネジメント論	2											0	0	2	6							
		選択													地域イノベーション論	2											0	0		2						
	職業実践科目	選択必修																									2	2		2						
		選択																									0	0		0						
職業専門科目	観光系科目群	選択必修				観光交通論	2																				0	0	4	8						
		選択																									0	0	0							
	職業実践科目	選択必修					観光交通実習1	2																			4	4	4							
		選択																									0	0	0							
芸術文化系科目	職業理論科目	選択必修				文化政策概論	2																				0	0	12	43						
		選択																									0	0	5							
	職業実践科目	選択必修				舞台芸術基礎実習	2																				8	8	8							
		選択	身体コミュニケーション実習	2	ダンスワークショップ実習A	2	ダンスワークショップ実習B	2	舞台芸術実習A	2	ダンスワークショップ実習C	2	舞台芸術実習B	2	ダンスワークショップ実習D	2	舞台芸術実習C	2	舞台芸術実習D	2							18	8	18							
展開科目	選択必修				世界を知る 地域の医療と福祉 持続可能な社会	2 2 2				地域コミュニティー論 国際防災論	2 2						兵庫の教訓を踏まえた防災 ジオパークと地域	2 2									0	0	20	20						
総合科目	必修																										0	0	4	4						
卒業要件単位数		17		5	21	4		18		7	14	4		12		12	14		0		2		2		2	0	40	30	134	134						
																	47				43				38				6							

履修モデル別の科目編成

資料10-3

●必修、◎選択必修、○選択

		アートマネジャー			
就職先区分		公共文化施設管理者、民間指定管理事業者、メディア産業、イベント企画会社、劇団			
職種		文化施設コーディネーター、アートマネジャー、アートディレクター			
役割		①公演等の企画意図を理解し、公演や作品等に適切に表現 ②優れた感性とセンスを生かし、集客力のある公演や作品等を企画・構成・制作 ③魅力的な実演芸術を通じて人々を引きつけ、地域の賑わいを創出 ④マーケティング、顧客獲得・拡大、営業・渉外・広報等のマネジメント ⑤芸術文化の受け手と作り手を結ぶコーディネート			
区分	分類	対応する科目	区分	身に付く知識・技能	
基礎	対話的コミュニケーション能力	コミュニケーション演習	●	対話を通じての関係者間の合意形成能力	
	初年次教育	知と表現のデザイン	●	大学での学びの姿勢、将来に向けたキャリアデザインを形成	
	教養、言語・情報リテラシー	情報処理演習		●	基礎的な情報処理に関する知識・技能を修得
		英語1 英語2		●	外国人との必要なコミュニケーションを図る能力を養成
		社会学		●	人間の活動が地域社会に及ぼす影響を考察する能力を養成
		言語表現論		○	言語を根源的・実践的に考察
		経済学		●	芸術文化、観光の事業を経済活動として捉え、考察する能力を養成
職業専門	共通 (専門知識・技能)	マネジメント入門	●	マネジメントの基礎理論を学修	
		アカウンティング入門	●	会計に関する基礎知識を修得	
		事業創造入門	●	新たな価値創造(新規事業の創造)に関する基礎理論を修得	
	観光 (専門知識・技能)	観光事業概論	●	観光産業に関する事業内容、課題、動向等の知識を修得	
		観光サービスマネジメント論	●	観光産業の特性に応じたサービスマネジメントの理論を学修	
		観光産業マーケティング論	●	観光産業の特性に応じたマーケティングの理論を学修	
	芸術文化 (専門知識・技能)	アートマネジメント概論	●	芸術文化と様々な分野とのつながりを理解。文化施設運営の実務に関する基礎知識を修得	
		パフォーミングアーツ概論	●	パフォーミングアーツの意味するところに関する基礎的な知識	
		文化施設運営論	●	文化施設の企画運営に関する知識・技能。実践に向けた土台を形成	
	共通 (専門知識・技能)	芸術文化観光概論	●	芸術文化と観光が地域活性化に果たす役割、学修する意義を考察	
		地域創生論	●	地域の発展に向けた理論、手法等に関する知識を修得	
		芸術文化観光プロジェクト実習1	●	国際演劇祭をフィールドに、芸術文化、観光を活用した取組を実践する知識・技能を養成	
		芸術文化観光プロジェクト実習2	○		
		芸術文化観光プロジェクト実習3	○		
		芸術文化観光プロジェクト実習4	○		
		専門演習	●	芸術文化及び観光により地域活性化を図る専門知識。研究課題の収集、研究方法	
	共通 (経営に関する専門知識・技能)	組織マネジメント論	◎	組織における人間行動特性等を理解	
	共通 (地域創生に関する専門知識・技能)	地域イノベーション論	○	地域の課題をイノベティブな方法で解決し、地域創生を図る方法論を学修	
		地域イノベーション実習	◎	経営革新を実現した企業の取組について実習	
	観光 (観光ビジネス能力に関する専門知識・技能)	観光交通論	◎	観光交通について概説し、課題・その改善策等を考察	
		ブランド論	◎	ブランディングの実践に向けた知識・理論を修得	
		観光交通実習1	◎	観光交通サービスの実務を通じて業務遂行力を修得	
		観光プロモーション演習	◎	新たな観光プロモーションの手法を考察	
	芸術文化 (芸術文化創造・マネジメント能力に関する専門知識・技能)	文化政策概論	◎	日本の文化政策の現状と課題、芸術文化の公共性について理解	
		芸術文化と著作権、法、契約	○	著作権をはじめ、関係法令等の必要知識を修得	
		文化産業論	◎	芸術文化と産業・経済の関係について歴史・理論等を多角的に考察	
		演劇入門	◎	演劇の概念や理論、またその実践や批評に関する基礎知識	
		空間デザイン入門	◎	空間デザインに関する基礎知識、ならびにその構想方法、またそれを人と協働する際の方法	
		演劇教育入門	○	演劇を活用した教育の基礎知識	
		演技論	◎	言葉や振る舞いを中心とした人間の演技に関する見識	
身体表現論		◎	身体をメディアとした表現の特質		
舞台美術論		○	舞台芸術におけるセノグラフィの知識と構想力		
舞台芸術基礎実習		◎	舞台芸術の制作・創作に関する全般的知見(体験的基礎知識)		
舞台芸術実習A		○	ステージマネージャーに関する知識と技能		
舞台芸術実習B		◎	演劇の実作に関する知識と技能		
舞台芸術実習C		○	ダンスの実作に関する知識と技能		
舞台芸術実習D		◎	新作の作り方と発信の仕方(クリエーションとプレゼンテーションの知識と技能)		
劇場プロデュース実習1		◎	劇場現場での実習を通じて劇場運営に関する職業能力を養成		
劇場プロデュース実習2		◎	劇場現場での実習を通じて劇場運営に関する職業能力を養成		
文化政策実習		◎	地方自治体の文化政策の現状・課題、具体的な対応策を検討		
身体コミュニケーション実習		○	身体感覚に基づくコミュニケーションのあり方		
ダンスワークショップ実習A		○	ダンサーとしての作品の理解力、それに伴う技術や想像力		
ダンスワークショップ実習B		○	振付の技術、ならびにダンスや身体への反省能力		
ダンスワークショップ実習C	○	ダンスティーチャーのスキル(発想力や指導力、言葉の運用能力等)			
ダンスワークショップ実習D	○	ダンスワークショップのモデレーターやコーディネーター、ならびに実践的な舞踊研究者に必要な諸能力			
展開	創造的な役割を果たすための応用能力	世界を知る	◎	世界の政治経済、歴史、宗教等に関する知見を修得	
		地域の医療と福祉	◎	地域医療、福祉に関する知識を修得	
		持続可能な社会	◎	「持続可能な発展」の理念を理解する	
		地域コミュニティー論	◎	地域コミュニティーの課題、公共私領域における活動概念を理解	
		国際防災論	◎	世界の自然災害や防災事情を知り、防災・減災の取組を学修	
		兵庫の教訓を踏まえた防災	◎	阪神淡路大震災の教訓を踏まえ、災害への備えを学修	
		ジオパークと地域	◎	ジオパークを題材に、地質・地形と文化・産業等の活動を理解	
		コウノトリの野生復帰と地域	◎	コウノトリと人が共生する地域の環境課題等を理解	
		地域資源の保全と活用	◎	地域資源の発見・保全・活用に関する基礎知識を修得	
		地域情報論	◎	地域情報を解析し、地域の実情を理解	
総合	教育課程の集大成	総合演習	●	分野の異なる複数の教員の指導による演習を通じて価値創造の力を身につける	

履修モデル別の科目編成

●必修、◎選択必修、○選択

		DMOディレクター			
就職先区分	DMO・DMC、地方自治体、観光協会				
職種	DMOディレクター、観光地域づくりマネージャー・プロデューサー、地方自治体の観光政策担当				
役割	①観光地域ブランド戦略を策定・推進 ②滞在交流型観光プログラムの造成、情報発信・販路拡大 ③観光地域づくりの組織運営マネジメント(受入れ体制の整備) ④多様な主体との調整及び連携促進				
区分	分類	科目	区分	身に付く知識・技能	
基礎	対話的コミュニケーション能力	コミュニケーション演習	●	対話を通じての関係者間の合意形成能力	
	初年次教育	知と表現のデザイン	●	大学での学びの姿勢、将来に向けたキャリアデザインを形成	
	教養、言語・情報リテラシー	情報処理演習		●	基礎的な情報処理に関する知識・技能を修得
		英語1 英語2		●	外国人との必要なコミュニケーションを図る能力を養成
		社会学		●	人間の活動が地域社会に及ぼす影響を考察する能力を養成
		地域とつながる歴史学		○	地域の歴史との関係から現代社会の課題を考察
		経済学		●	芸術文化、観光の事業を経済活動として捉え、考察する能力を養成
職業専門	共通 (専門知識・技能)	マネジメント入門	●	マネジメントの基礎理論を学修	
		アカウンティング入門	●	会計に関する基礎知識を修得	
		事業創造入門	●	新たな価値創造(新規事業の創造)に関する基礎理論を修得	
	観光 (専門知識・技能)	観光事業概論	●	観光産業に関する事業内容、課題、動向等の知識を修得	
		観光サービスマネジメント論	●	観光産業の特性に応じたサービスマネジメントの理論を学修	
		観光産業マーケティング論	●	観光産業の特性に応じたマーケティングの理論を学修	
	芸術文化 (専門知識・技能)	アートマネジメント概論	●	芸術文化と様々な分野とのつながりを理解。文化施設運営の実務に関する基礎知識を修得	
		パフォーミングアーツ概論	●	パフォーミングアーツの意味するところに関する基礎的な知識	
		文化施設運営論	●	文化施設の企画運営に関する知識・技能。実践に向けた土台を形成	
	共通 (専門知識・技能)	芸術文化観光概論	●	芸術文化と観光が地域活性化に果たす役割、学修する意義を考察	
		地域創生論	●	地域の発展に向けた理論、手法等に関する知識を修得	
		芸術文化観光プロジェクト実習1	●	国際演劇祭をフィールドに、芸術文化、観光を活用した取組を実践する知識・技能を養成	
		芸術文化観光プロジェクト実習2	○		
		芸術文化観光プロジェクト実習3	○		
		芸術文化観光プロジェクト実習4	○		
		専門演習	●	芸術文化及び観光により地域活性化を図る専門知識。研究課題の収集、研究方法	
	共通 (経営に関する専門知識・技能)	リーダーシップ論	◎	リーダーシップに関する実践的な能力を養成	
	共通 (地域創生に関する専門知識・技能)	地域創生実習	◎	地方自治体における地域創生の取組について実習	
		地域連携実習	○	住民・企業・行政から提供された課題の解決策を考案	
	観光 (観光ビジネス能力に関する専門知識)	観光政策論	◎	観光政策のあり方について多角的な視座を獲得	
		観光交通論	◎	観光交通について概説し、課題・その改善策等を考察	
		旅行産業論	◎	旅行業の現状と課題を概説し、課題整理と将来展望を考察	
		エリアマネジメント論	○	観光がもたらす影響を多面的に把握する方法を学び、地域のマネジメントを学修	
		ディステーションマネジメント論	○	ディステーションマネジメントの構成要素を整理し、観光地経営の方法論を修得	
		観光メディア論	○	観光とメディアの関係性を多角的に考察	
		ディステーションマーケティング論	◎	DMの仕組みを理解し、DMの施策策定能力を養成	
		インバウンドマーケティング論	◎	国際観光客に焦点をあてたマーケティングの概念と手法を修得	
		観光資源実習	○	レジャー施設業務に従事し、運営ノウハウとホスピタリティを修得	
		観光交通実習1	◎	観光交通サービスの実務を通じて業務遂行力を修得	
		観光交通実習2	○	観光交通サービスの実務を通じて業務遂行力を修得	
旅行事業実習1		◎	旅行サービスの実務を通じて業務遂行力を修得		
旅行事業実習2		○	旅行サービスの実務を通じて業務遂行力を修得		
ホスピタリティ実習		○	テーマパーク、リゾート施設におけるサービスマネジメントの仕組・役割を理解し、現場の課題と解決策を考察		
観光プロモーション演習		◎	新たな観光プロモーションの手法を考察		
ディステーション実習		◎	DMO等の現場で観光商品・サービスの企画開発に取り組む		
観光プロジェクト立案演習		◎	観光商品・サービスの企画開発に関して演習		
芸術文化 (芸術文化創造・マネジメント能力に関する専門知識・技能)		文化政策概論	◎	日本の文化政策の現状と課題、芸術文化の公共性について理解	
		文化産業論	◎	芸術文化と産業・経済の関係について歴史・理論等を多角的に考察	
		空間デザイン入門	◎	空間デザインに関する基礎知識、ならびにその構想方法、またそれを人と協働する際の手法	
	舞台芸術基礎実習	◎	舞台芸術の制作・創作に関する全般的知見(体験的基礎知識)		
	文化政策実習	◎	地方自治体の文化政策の現状・課題、具体的な対応策を検討		
	ダンスワークショップ実習A	○	ダンサーとしての作品の理解力、それに伴う技術や想像力		
展開	創造的な役割を果たすための応用能力	世界を知る	◎	世界の政治経済、歴史、宗教等に関する知見を修得	
		地域の医療と福祉	◎	地域医療、福祉に関する知識を修得	
		持続可能な社会	◎	「持続可能な発展」の理念を理解する	
		国際防災論	◎	世界の自然災害や防災事情を知り、防災・減災の取組を学修	
		NPO・NGOと国際社会	◎	NPO・NGOの運営と様々な活動、役割を学修	
		兵庫の教訓を踏まえた防災	◎	阪神淡路大震災の教訓を踏まえ、災害への備えを学修	
		ジオパークと地域	◎	ジオパークを題材に、地質・地形と文化・産業等の活動を理解	
		地域資源の保全と活用	◎	地域資源の発見・保全・活用に関する基礎知識を修得	
		地域情報論	◎	地域情報を解析し、地域の実情を理解	
		国際環境論	◎	グローバルな環境問題を読み解く基礎知識を修得	
		総合	教育課程の集大成	総合演習	●

区分	1年次				2年次				3年次				4年次				実習	臨実	計	総計			
	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q							
基礎科目	必修	コミュニケーション演習 知と表現のデザイン 情報処理演習 英語1A	1 1 1 3	1 1 1 3	英語2A	2	英語2B	2										0	0	19	20		
	選択			文学														0	0	1			
コア科目群	必修	マネジメント入門 観光事業概論 アートマネジメント概論 パフォーミングアーツ概論 芸術文化観光概論	2 2 2 2 1	2 2 2 2 1	事業創造入門 観光サービスマネジメント論 文化施設運営論	2 2 2	観光産業マーケティング論 地域創生論	2 2	専門演習	2	専門演習	2						2	2	27	27		
	選択																	0	0	0			
共通	職業理論科目	選択必修					アントレプレナーシップ論	2										0	0	2	8		
	職業実践科目	選択必修							地域イノベーション論	2								0	0	2			
	職業実践科目	選択必修								地域イノベーション実習	2							2	2	2			
	職業実践科目	選択										地域連携実習	2					2	0	2			
職業専門科目	観光系科目群	職業理論科目	選択必修			観光交通論	2	旅行産業論 宿泊産業論	2 2			観光デジタルマーケティング論	2	旅行者心理学	2			0	0	10	41		
		職業実践科目	選択			ニューツーリズム論	2			観光地理学	2	観光社会学	2					0	0	6			
	職業実践科目	選択必修				観光交通実習1	2	旅行事業実習1 宿泊実習1	2 4		観光プロモーション演習	2	DESTINATION実習	2	観光プロジェクト立案演習	2			14	14		14	
		選択		観光資源実習	1			海外実習A	2		観光交通実習2 宿泊実習2	2 4	旅行事業実習2	2					11	9		11	
	芸術文化系科目	職業理論科目	選択必修						身体表現論	2				現代アート論	2				0	0		4	
		職業実践科目	選択必修								劇場プロデュース実習1	2	劇場プロデュース実習2	2					4	4		4	
職業実践科目	選択		身体コミュニケーション実習	2	演劇ワークショップ実習A	2	演劇ワークショップ実習B	2										6	0	6			
展開科目	選択必修			世界を知る 地域の医療と福祉 持続可能な社会	2 2 2		地域コミュニティー論 国際防災論	2 2	NPO・NGOと国際社会	2			兵庫の教訓を踏まえた防災	2	コウノトリの野生復帰と地域	2			0	0	20	20	
総合科目	必修													総合演習	2		総合演習	2		0	0	4	4
卒業要件単位数		17	7	19	4	16	11	12	8	8	12	14	0	2	2	2	0	0	0	41	31	134	134

履修モデル別の科目編成

資料12-3

●必修、◎選択必修、○選択

		観光事業プランナー・マネジャー		
就職先区分	旅行業、レジャーサービス、イベント企画会社、旅行交通業、宿泊業等			
職種	地域づくりプランナー、ツアーオペレーター、ホテルマネージャー			
役割	①マーケットの構造転換に対応し、顧客に選ばれる商品・サービスの開発、企画の立案等を実践 ②内外の顧客獲得、販路拡大につながるマーケティングの実施、プロモーションなど情報発信 ③企業ビジョンに沿った企画を立案・実行 ④ホスピタリティ及び顧客心理の理解 ⑤多様なステークホルダーとの関係構築			
区分	分類	対応する科目	区分	身に付く知識・技能
基礎	対話のコミュニケーション能力	コミュニケーション演習	●	対話を通じての関係者間の合意形成能力
	初年次教育	知と表現のデザイン	●	大学での学びの姿勢、将来に向けたキャリアデザインを形成
	教養、言語・情報リテラシー	情報処理演習	●	基礎的な情報処理に関する知識・技能を修得
		英語1 英語2	●	外国人との必要なコミュニケーションを図る能力を養成
		社会学	●	人間の活動が地域社会に及ぼす影響を考察する能力を養成
		文学	○	文学の意味するところを考察
	経済学	●	芸術文化、観光の事業を経済活動として捉え、考察する能力を養成	
職業専門	共通 (専門知識・技能)	マネジメント入門	●	マネジメントの基礎理論を学修
		アカウンティング入門	●	会計に関する基礎知識を修得
		事業創造入門	●	新たな価値創造(新規事業の創造)に関する基礎理論を修得
	観光 (専門知識・技能)	観光事業概論	●	観光産業に関する事業内容、課題、動向等の知識を修得
		観光サービスマネジメント論	●	観光産業の特性に応じたサービスマネジメントの理論を学修
		観光産業マーケティング論	●	観光産業の特性に応じたマーケティングの理論を学修
	芸術文化 (専門知識・技能)	アートマネジメント概論	●	芸術文化と様々な分野とのつながりを理解。文化施設運営の実務に関する基礎知識を修得
		パフォーミングアーツ概論	●	パフォーミングアーツの意味するところに関する基礎的な知識
		文化施設運営論	●	文化施設の企画運営に関する知識・技能。実践に向けた土台を形成
	共通 (専門知識・技能)	芸術文化観光概論	●	芸術文化と観光が地域活性化に果たす役割、学修する意義を考察
		地域創生論	●	地域の発展に向けた理論、手法等に関する知識を修得
		芸術文化観光プロジェクト実習1	●	国際演劇祭をフィールドに、芸術文化、観光を活用した取組を実践する知識・技能を養成
		専門演習	●	芸術文化及び観光により地域活性化を図る専門知識。研究課題の収集、研究方法
	共通(経営に関する専門知識・技能)	アントレプレナーシップ論	◎	企業家精神について考察
	共通 (地域創生に関する専門知識・技能)	地域イノベーション論	○	地域の課題をイノベティブな方法で解決し、地域創生を図る方法論を学修
		地域イノベーション実習	◎	経営革新を実現した企業の取組について実習
		地域連携実習	○	住民・企業・行政から提供された課題の解決策を考案
	観光 (観光ビジネス能力に関する専門知識・技能)	観光交通論	◎	観光交通について概説し、課題・その改善策等を考察
		ニューツーリズム論	○	体験型・交流型の新しい観光の展開過程、課題、今後の方向性等を考察
		旅行産業論	◎	旅行業の現状と課題を概説し、課題整理と将来展望を考察
		宿泊産業論	◎	宿泊産業を俯瞰し、現状と課題、将来のあり方を考察
		観光地理学	○	地域の環境・文化等を分析、持続可能な観光地域づくりを考察
		観光社会学	○	観光社会学の考え方・知識を修得
		観光デジタルマーケティング論	◎	デジタルマーケティングの理論・技法を修得
		旅行者心理学	◎	旅行者が観光行動を生起するしくみを理論的に学修
		観光資源実習	○	レジャー施設業務に従事し、運営ノウハウとホスピタリティを修得
		観光交通実習1	◎	観光交通サービスの実務を通じて業務遂行力を修得
観光交通実習2		○		
旅行事業実習1		◎	旅行サービスの実務を通じて業務遂行力を修得	
旅行事業実習2		○		
宿泊業実習1		◎	宿泊産業の現場実習を通じて課題や改善策を考察	
宿泊業実習2		○		
海外実習A		○	海外での観光業の実務経験を通じ、グローバルな視野の修得	
観光プロモーション演習		◎	新たな観光プロモーションの手法を考察	
ディスティネーション実習		◎	DMO等の現場で観光商品・サービスの企画開発に取り組む	
観光プロジェクト立案演習		◎	観光商品・サービスの企画開発に関して演習	
芸術文化 (芸術文化創造・マネジメント能力に関する専門知識・技能)	現代アート論	◎	現代アートを取り巻く状況を多角的な観点から考察	
	身体表現論	◎	身体をメディアとした表現の特質	
	劇場プロデュース実習1	◎	劇場現場での実習を通じて劇場運営に関する職業能力を養成	
	劇場プロデュース実習2	◎		
	身体コミュニケーション実習	○	身体感覚に基づくコミュニケーションのあり方	
	演劇ワークショップ実習A	○	俳優の心構え・身構え	
	演劇ワークショップ実習B	○	演出家やドラマティチャーのスキル(発想力や指導力、言葉の運用能力等)	
展開	創造的な役割を果たすための応用能力	世界を知る	◎	世界の政治経済、歴史、宗教等に関する知見を修得
		地域の医療と福祉	◎	地域医療、福祉に関する知識を修得
		持続可能な社会	◎	「持続可能な発展」の理念を理解する
		地域コミュニティ論	◎	地域コミュニティの課題、公共私領域における活動概念を理解
		国際防災論	◎	世界の自然災害や防災事情を知り、防災・減災の取組を学修
		NPO・NGOと国際社会	◎	NPO・NGOの運営と様々な活動、役割を学修
		兵庫の教訓を踏まえた防災	◎	阪神淡路大震災の教訓を踏まえ、災害への備えを学修
		コウノトリの野生復帰と地域	◎	コウノトリと人が共生する地域の環境課題等を理解
		地域情報論	◎	地域情報を解析し、地域の実情を理解
		国際環境論	◎	グローバルな環境問題を読み解く基礎知識を修得
		総合	教育課程の集大成	総合演習

臨地実務実習 マニュアル(案)

(令和3年4月版)

芸術文化観光学部
芸術文化観光学科

芸術文化観光専門職大学

目 次

I.	実習の目的	1
II.	単位の履修条件	3
III.	実習先の選定	3
IV.	実習の心得	4
V.	事前準備（事前学習）	4
VI.	実習中の注意点	5
VII.	実習後の注意点（事後学習）	7
VIII.	実習日報	7
IX.	実習に関する学修相談	7
X.	臨地実務実習の流れ	8
XI.	実習の記録（各種書式）	
	1. 実習計画書	
	2. 実習生個人票	
	3. 日報	
	4. 評価表	
	5. 誓約書	
	6. 完了報告書	

I. 実習の目的

1. 目的

1) 本学の理念（育成する人材像）

地域活性化における芸術文化と観光の果たす役割を理解し、両分野の視点を生かし、芸術文化と観光に関する事業活動を推進することで地域の新たな活力を創出する人材

2) 本学の实習について

本学における教育課程は、一般の大学に比べ、現場での実務や経験を重視した体系的なカリキュラム編成であり、理論に裏付けられた実践力を育成するため、講義科目との関連性を考慮し、基礎的な知識や技能を修得した上で、実社会で行われている業務の処理能力を修得するよう大学4年間を通して重層的かつ体系的に実習科目が配置されている。

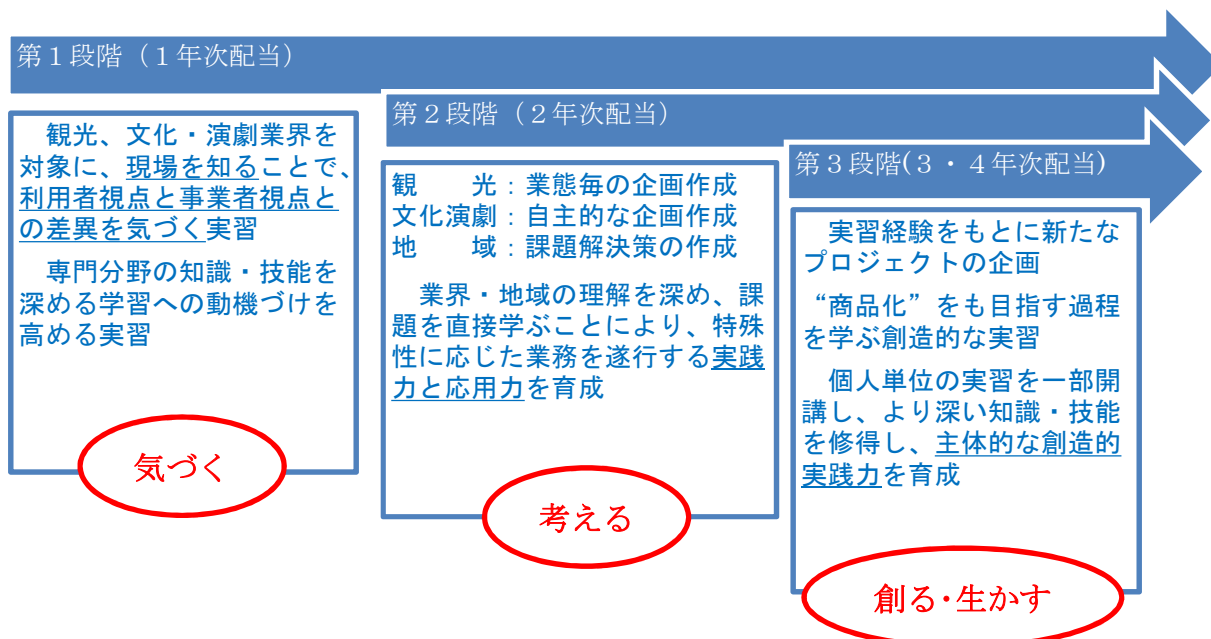
本学の实習では、大学在学中に実社会の多様なステークホルダーの取組を横断的に学ぶことにより、産業界と連携して社会的・職業的自立意識を高め、理論に裏付けられた実践力の育成を図るとともに、実社会のニーズに即応した担い手を養成し、新たな付加価値をもたらす能力を修得することを目的とする。

3) クォーター制を採り入れた段階的かつ重層的に体系化した実践教育

本学では、クォーター制の学期特性を活かし、第1クォーター及び第3クォーターは、主に講義、演習科目、第2クォーター及び第4クォーターは、主に実習及び海外留学プログラム等を配置することにより、系統学修と実践学修を交互に繰り返す「ラーニング・ブリッジング」の手法を取り入れた体系的なカリキュラム編成及び授業の実施方法により、学生の学びを着実に深化させていくこととしている。

また、本学は教育課程の編成、実施体制の整備にあたって地域産業界等との連携を図りつつ、800時間にも及ぶ量的かつ質的にも充実したカリキュラムとなっている。理論科目及びその理論と関連する実習科目を学修することで効果的に理解を深め、学生の関心やキャリア志向に応じ、実習1、2のように段階的な履修により学修の深化を図るほか、単独の分野を長期に履修させるのではなく、「観光系」「芸術文化系」双方の視点から、必ずそれぞれ科目を選択して履修することで、各分野を横断して知見を拡げていく重層的な教育課程となっている。

<実習体系図>



<本学の臨地実務実習科目の配当>

区分	観光	コア	演劇	文化	共通
第1段階	観光資源実習(2)① 観光交通業実習1(4)②	芸術文化観光プロジェクト実習1(2)②（必修）	舞台芸術基礎実習(3)②		
第2段階	観光交通業実習2(4)② 宿泊業実習1(2)④ 宿泊業実習2(4)④ ホスピタリティ実習(4)⑧ 旅行事業実習1(2)②	芸術文化観光プロジェクト実習2(2)②	舞台芸術実習A(1)② 舞台芸術実習B(3)②		地域創生実習(4)②
第3段階	旅行事業実習2(2)② 観光プロモーション演習(1)② 観光プロジェクト立案演習(3)② テストレーション実習(2)②	芸術文化観光プロジェクト実習3(2)② 芸術文化観光プロジェクト実習4(2)②	舞台芸術実習C(1)② 舞台芸術実習D(3)②	劇場プロデュース実習1(4)② 劇場プロデュース実習2(2)② 文化政策実習(2)② 総合芸術文化実習(2)④	地域イノベーション実習(2)②

* 下線付科目は、企業等の講師が大学内で実習を行う連携科目、芸術文化観光プロジェクト実習1は必修科目。
網掛け白抜き科目は選択必修科目。それ以外は選択科目。
科目名横の（ ）数字は配当クォーター、○数字は単位数。
第3段階のうち、芸術文化観光プロジェクト実習4、総合芸術文化実習の2科目は4年次配当。

Ⅱ. 単位の履修条件

1. 履修時間

- 1) 1日8時間を5日間、計40時間の実習で1単位とする。

実習期間により単位数が異なる。(2単位：10日間、4単位：20日間、8単位：40日間)

2. 実施期間

- 1) 第2クォーター及び第4クォーター(舞台芸術基礎実習・実習A~D、演習科目除く)
詳細な日程については、実習施設毎に異なるため、履修登録後の実習先選定時に確定される。

*施設によっては、土曜、日曜及び祝日に実施する場合があるが、その場合は、休日を他の日に振り替えることにより、週休2日体制とする。

3. 単位認定実習記録

- 1) 実習の単位認定は実習評価によって行い、実習評価により合格した学生に所要の単位を認定する。
- 2) 実習日報は実習の履修記録でもあり、単位認定の資料ともなるので、実習期間中の記入を決して怠らず、かつ大切に扱うこと。

Ⅲ. 実習先の選定

1. 学生の希望に基づき、以下の流れで臨地実務実習先を選定する。

- 1) 学生は履修する臨地実務実習科目について、履修登録の際に希望する実習先を登録するものとする。
- 2) 実習支援センターは、各臨地実務実習科目ごとに希望者を抽出し、各科目の責任者たる実習担当専任教員に提示するものとする。
- 3) 実習担当専任教員は、学生の希望を考慮しつつ、実習場所への移動及び受入可能人数等を踏まえ実習先を決定する。1カ所の受入可能人数を超過する場合など、選定に際して学生とのヒアリングの実施、直近までのGPAの活用を行う可能性がある。
- 4) 実習先の決定を受け、実習支援センターは派遣実習生一覧及び実習生個人票を実習先に送付する。

学生は、原則として公共交通機関を利用して実習先へ通うこと。実習施設が遠隔地にあり移動が困難となる場合は、施設側の斡旋する従業員寮や大学が確保する施設近隣の宿泊施設の利用を検討するなど実習開始前に必ず宿泊先を確保すること。(原則、費用は学生負担となるが、一部は施設側からの部屋の提供もあり。)

IV. 実習の心得

1. 実習先の長、実習指導者の指示や指導には、誠実に従うこと。
2. 常に、指導を受けている立場であるという自覚を持って行動し、感謝の気持ちを忘れず、積極的な学習意欲を持ち、謙虚に学ぶ態度を徹底すること。
3. 一部の实習では、実習先と実習生との間に使用従属関係が発生すると見なされる恐れがあるため、実習生に実習手当を支給する施設がある。業務の遂行にあたっては、単に実践技能を修得するだけでなく、実習先へ貢献するという姿勢で臨むこと。
4. 想定外の場面等で判断に迷う場合は、実習先に迷惑がかからないよう必ず実習指導者に相談し、自分だけで問題を処理しようとししないこと。
5. 実習先での処遇や実習内容について、SNS等で絶対に発信したりしないこと。
6. 実習中に入手した企業等の内部情報について、決して外部に漏らすことのないよう守秘義務を徹底すること。

V. 事前準備(事前学習)

1. 学内

実習の心がまえ・必要書類・必要な手続きなどをよく理解し、実習に関する認識を深めること。

2. 実習先

- 1) 配属決定後、担当教員と面談を行い、改めて実習の意義、業務内容を確認する。それらを踏まえ、実習における目標の設定、必要に応じて実習先を事前に訪問するなど実習先のリサーチを十分に行い、実習開始までに実習計画書、個人票、誓約書を作成すること。(必要に応じ教員の作成指導を受けておくこと)
- 2) 実習先への行き方や所要時間を前もってよく調べておくこと。決して遅刻することのないよう、指定時刻の10分前には到着するようにすること。(原則、公共交通機関を利用すること)
- 3) 必要書類・必要な持ち物などについても、確実に確認、準備をしておくこと。
- 4) 実習に差し支えないよう、事前に体調管理を十分に行っておくこと。
(体調不良による欠席は当然公欠にならない。単位認定に影響するため、留意のこと)
- 5) 保険料、実習中の昼食費、交通費または宿泊費などは原則的に全て自己負担となる。

<保険の加入について>

- ・本学では、学生の正課中、通学中等に発生した不慮の事故等に備え、以下の保険に全員加入している。(入学時に大学で一括加入。学生個人での加入は必要なし)

① 学生教育研究災害傷害保険（傷害保険）

正課中、野外活動中、通学中及び施設間移動中に不慮の事故によって、学生が被った傷害に対する保障制度

② 学生教育研究賠償責任保険（賠償責任保険）

正課、野外活動及びその往復で、他人にケガをさせたり、他人の財物を破損したことにより学生が被る法律上の損害賠償を補填

- ・実習中の事故に対する災害補償及び損害補償について、学生が身体に傷害を被った場合又は他人に傷害を負わせた場合若しくは他人の財物を損壊した場合等には、上記の保険で対応することとなる。速やかに下記まで連絡すること。

*保険適用に関する問い合わせ先は実習支援センター(TEL)まで

VI. 実習中の注意点

1. 持ち物

- 1) 実習先から指定されたもの
- 2) 学生証
- 3) 実習マニュアル
- 4) 筆記用具・メモ帳（ポケットに入るぐらいの大きさのものが良い）
- 5) 健康保険証、またはその写し
- 6) 実習先担当者(実習指導者)の連絡先

2. 服装

- 1) 実習先にふさわしく、清潔で落ち着いた印象の服装を心がけること。
※実習先から服装について指示がある場合は、その指示に従うこと。
- 2) 基本的に男子はワイシャツにネクタイ、スラックス(上着が必要な場合もあり)、女子はブラウス、スカート又はスラックス(上着が必要な場合もあり)等、ビジネスにふさわしい、清潔感のある服装を心がけること。

3. 実習期間中

- 1) 実習期間中は、実習指導者の指示に従って行動すること。指示や指導について不明な点がある場合は、質問・相談し、正確な行動をとり、勝手な解釈による行動をしないこと。
- 2) 1日の実習時間については、実習先の一般職員の就業規則に準ずる。就業時間、休憩時間、会議開催時間等を厳守すること。
- 3) 自身の健康管理には十分留意し、規則正しい生活を送ること。遅刻・早退・欠席は、絶対にしないこと。やむを得ず体調不良等になった場合は、必ず事前に実習指導者および実習担当教員に連絡をし、了承を得ること。

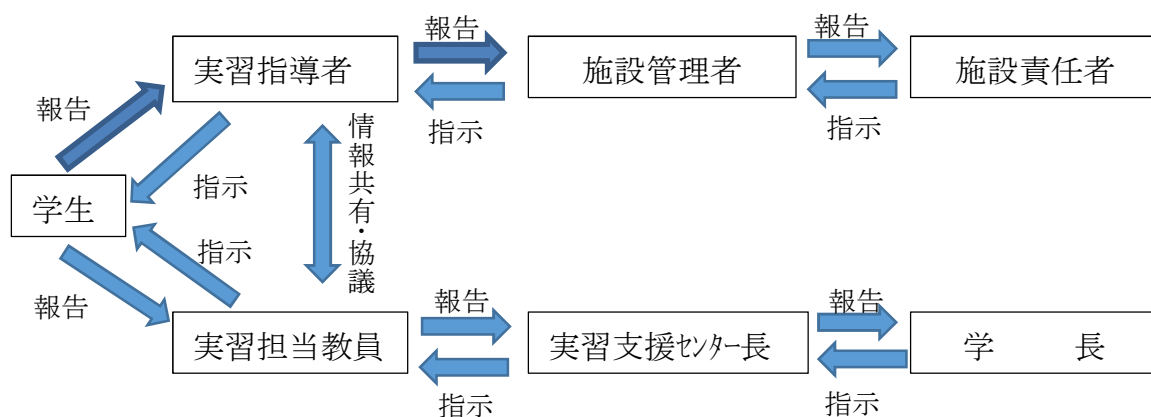
- 4) 礼儀と作法をわきまえ、謙虚で誠実な態度をとるよう留意すること。実習開始・終了時の挨拶を徹底し、特に終了時は、必ず許可を得てから帰ること。
- 5) 毎日、日報に記入し、所定の方法により実習指導者、担当教員に提出すること。
- 6) 実習期間の中間時点で担当教員が巡回指導で施設を訪問するので、相談事項等予め考えておくこと。また、巡回指導以外で、担当教員に相談したい事項が生じた場合は、教員又は実習支援センターに電話、メールなどにより連絡すること。
* 中間時点と最終日には、教員同席のもと中間・最終報告会が開催される。準備を怠らず、建設的な意見交換を行うなど、自身の成長に役立てること。
- 7) 実習に関して、緊急事態が発生した場合は、速やかに実習指導者及び担当教員に連絡すること。
- 8) 実習時間中の私用外出・電話連絡などは、実習指導者に断った上で、緊急の場合以外は避けること。
- 9) 実習先の書類や資料等は、決して勝手にコピーをしたり持ち出したりしないこと。
- 10) 設備・備品・書類などの使用については必ず許可を得てから使い、むやみに実習先の備品や消耗品を借りないこと。
- 11) 実習中に与えられたスペース（ロッカー・机・控室など）は、常に整理整頓をしておくこと。
- 12) 自家用車およびバイクでの実習先への通所は禁止。（原則：公共交通機関を利用）

《個人情報への対応・守秘義務》

刑罰に触れる場合があるので特に注意すること。

特に SNS 等による動画の撮影など実習先への迷惑行為は固く禁止する。

＜緊急時の連絡フロー＞



<大学の緊急連絡先>

(月～金 午前 ～午後 まで)

実習支援センター TEL メール

*ただし、第2、第4Qの実習期間中は土、日、祝含む

VII. 実習後の注意点(事後学習)

1. 実習先には、必ずお礼状を出すこと。
 2. 実習終了後、直ちに完了報告書を作成し担当教員の指導を受けること。
 3. 実習を通して得た実習先の情報は、実習終了後も絶対に外部に漏らさないこと。
 4. 実習終了後、実習で知り合った人との個人的接触はしてはならない。その必要や機会がある場合には、勝手な判断で行動せず、担当教員および実習指導者に相談のうえで対応すること。
- ※ 3及び4は刑罰に触れる場合があるので、特に注意すること。

《実習報告会》

実習終了後、実習科目毎に学内で実習報告会を実施するので参加すること。

他の施設を訪問した学生の経験から新たな価値を見いだすとともに、自身の成果を客観視する機会として積極的な姿勢で臨むこと。

(受入実習施設の関係者も可能な限り参加することとなる。)

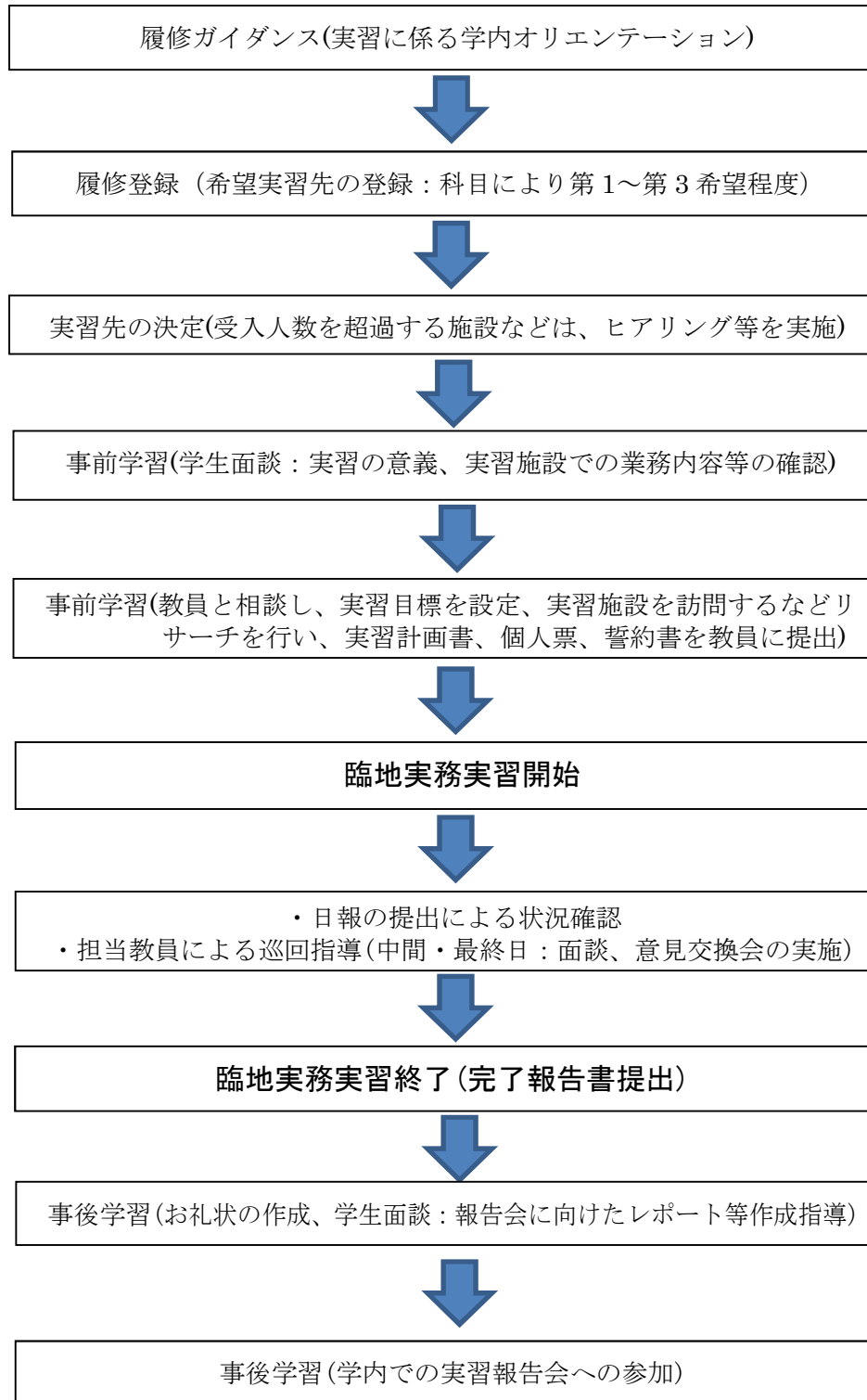
VIII. 実習日報

1. 毎日必ず実習日報を記入すること。日報についての日々の指導・検印の受け方については、予め担当教員と相談のうえ、実習指導者と打ち合わせて決めること。
2. 「修得したこと・反省・考察・成果など」は、事実の記録をしたうえで、自分なりに感じたことや考えたこと、また翌日以降の実習の指針となるようなことを記入すること。

IX. 実習に関する学修相談

1. 臨地実務実習に関する様々な不安、心配等について、実習支援センターに相談窓口を設けているので、必要に応じ訪問、電話、メール等の手段により活用すること。
2. 実習支援センターには、実習を担当する専任教員全員が参画しており、実習に係る専門的な内容でも相談可能。

臨地実務実習の流れ



芸術文化観光専門職大学実習生個人票(学籍 No.)

令和 年 月 日現在

フリガナ 氏 名			顔写真貼付 (脱帽・無背景) 3 × 4 cm
性 別			
年 齢	満	歳	
実習時の連絡先	〒 -		
	TEL		
通勤経路	所要時間 (約 時間 分)		
臨地実習歴	実習時期	実習科目	実習内容
	年 月		
	年 月		
	年 月		
	年 月		
	年 月		
免許・資格			
自己PR			
その他特記事項			

芸術文化観光専門職大学臨地実務実習 日報

実習科目名	
記入日	年 月 日 ()
学籍番号	
実習生氏名	
実習指導者	
実習担当教員	
実習期間	月 日 () ~ 月 日 ()

実施した実習内容	
----------	--

指導を受けた事項 など	
----------------	--

修得したこと・ 反省・考察・成果 など	
---------------------------	--

芸術文化観光専門職大学臨地実務実習 評価表(例)

年 月 日

貴学より受入をしました実習生の評価について、下記のとおり報告します。

実習施設名			
実習指導者氏名		役職名	

受入学生氏名		学籍番号	
実習内容			
受入期間	年 月 日 ~ 年 月 日 (日間)		
実習出欠状況	出席 日	休暇 日	欠勤 日
	遅刻 日	早退 日	

(注) 全日程の4/5以上の出席で単位認定の有資格者とする。

【評価項目】

評価項目	内容	評定
知識・理解	業務内容を理解した上で、説明ができるか	S A B C D
技能	業務を単独で遂行することができるか	S A B C D
志向・態度	専門業務の修得に取り組んだか	S A B C D
ビジョン形成力	あるべき姿を描き出す力の修得に取り組んだか	S A B C D
コミュニケーション力	多様な人の中で協働する力の修得に取り組んだか	S A B C D
イノベーション力	新たな価値を創造する力の修得に取り組んだか	S A B C D
マネジメント力	最善に業務を遂行する状態を維持する力の修得に取り組んだか	S A B C D

【成績評価基準】 評定の基準は以下のとおり。

評点	S	A	B	C	D
内容	非常に優秀	優秀	標準	基本	不十分
成績評価基準の詳細は、(別紙) ルーブリック 参照					

【実習生に対する全体的な評価】

誓 約 書

年 月 日

(企業名又は施設名) 様

芸術文化観光専門職大学 ○年

学籍番号

実習生氏名

印

この度、私が御社(又は貴施設)において臨地実務実習(以下「実習」という。)を行うにあたっては、下記事項を遵守することを誓います。

記

- 1 実習期間中は、「芸術文化観光専門職大学の臨地実務実習に関する実施協定書」の規定に従います。
- 2 実習期間中は、御社(又は貴施設)の就業規則及び諸規則の規定に従います。
- 3 御社(又は貴施設)の諸規則を守り、実習期間中は実習指導者の指示に従います。
- 4 実習に際しては、次の事項を厳守します。
 - (1) 御社(又は貴施設)の名誉を毀損するような行動は行いません。
 - (2) 御社(又は貴施設)の営む事業を妨害するような行動は行いません。
 - (3) 実習中知り得た秘密事項は外部に漏洩しません。
- 5 故意または過失により御社(又は貴施設)に損害を与えたときは、加入している災害補償保険を用いて弁償します。
- 6 実習中に自己の不注意により災害を受けた場合は、加入している損害賠償保険を用いて自己の責任において処理します。
- 7 実習中は誠意をもって励みます。

以上誓約いたします。

芸術文化観光専門職大学 臨地実務実習に係る完了報告書

氏名(フリガナ)	()		
学籍番号		学 年	
実習科目名			
実習施設名			
実習指導者			
実習担当教員			
実習期間	月 日 ()	～	月 日 ()
実習目標			
実習目標に対する 総合評価と達成度 (自己評価)			
実習期間中最も印象 に残った出来事／実 習前後の自身の変化			
実習を実施する上で 課題だと感じたこと (次年度に向けて)			

(注) 実習担当教員の指導を受けること

実習支援センター規程（案）

（趣 旨）

第1条 この規程は、学生が安心かつ円滑に、学修効果の高い臨地実務実習（以下「実習」という。）を遂行できることを目的に設置する実習支援センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関して必要な事項を定めるものとする。

（業 務）

第2条 センターは、実習科目の担当専任教員と連携し次に掲げる業務を行う。

- (1) 実習施設の開拓及び確保に関すること。
- (2) 実習に関する研修会に関すること。
- (3) 実習先の選定に関すること。
- (4) 実習計画の立案に関すること。
- (5) 実習期間中の進行管理に関すること。
- (6) 実習マニュアルの作成及び見直しに関すること。
- (7) 事前学習（学内オリエンテーション）及び事後学習（報告会）に関すること。
- (8) 緊急時等の対応に関すること。
- (9) 実習に関する学修相談及び教育補助に関すること。
- (10) その他、実習に関すること。

（組織等）

第3条 センターに、次に掲げる職を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長

2 第1項に掲げる職のほか、センターに常勤又は非常勤の教員等を置くことができる。

（庶 務）

第4条 センターの庶務は、事務局で行う。

（補 則）

第5条 この規程に定めるもののほか、センターの運営に関して必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

①書類等の題名

資料 15 教育課程連携協議会構成員名簿

②出典

兵庫県

③書類等の利用範囲

教育課程連携協議会構成員名簿(補正申請時に添付した書類)

④その他、著作物等について加工している場合には、その加工に関する説明

・加工なし